

令和4年度第1回高岡市介護保険運営協議会議事録（要旨）

日 時：令和5年2月28日（火）

午後6時00分～

場 所：高岡市役所8階802会議室

（出席委員）

炭谷会長、金岡副会長、吉田委員、石多委員、垣内委員、米澤委員、上見委員、宮崎委員
梶委員、向井委員、石田委員、坪内委員、加藤委員、堀井委員、松岡委員、山吉委員

（欠席委員）

山本委員、河合委員、桑山委員、野村委員

（事務局）

戸田福祉保健部長、関原高齢介護課長、中原係長、宮島係長、永森係長、鍵主係長
山口主査理学療法士、吉野主任、小林主任

1 開会

2 議事 進行：炭谷会長

3 意見交換要旨

＜事務局説明＞

（1）第8期高岡市高齢者保健福祉計画・高岡市介護保険事業計画の取組み状況について

議事（1）について事務局 鍵主係長が説明

○石田委員

要支援1・2の認定率について3.5%から3.8%へ0.3%増加しているが、実人数はどのくらい増加していることになるのか。

○事務局

約60人の増加である。

○事務局

本市の計画では介護予防を重視しており、要介護1・2認定者の抑制を図り、元気高齢者を作っていきたいと考えている。要支援1・2の認定率が増加したことをご迷惑をおかけしている点については申し訳ない。

○向井委員

最近はデイサービスの利用者が減少しているように感じている。原因は一つではないと思う

が、介護度が要支援１・２で留まり、要介護にならない人が増えていることも一つの要因だと思う。

○炭谷会長

デイサービス利用者の減少は新型コロナウイルスの影響もあると思うが、介護予防事業の効果が現れて要支援から要介護となる人を抑制している部分もあるのではないかと。

<事務局説明>

(２) 第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について

(３) 国における審議内容について

議事(２)及び(３)について事務局 鍵主係長が説明

○垣内委員

県の計画も来年度中に策定予定としており、計画策定においては県内自治体の介護保険事業計画と連動して協議を進めることとしていることから、引き続きご協力願いたい。

○吉田委員

市の計画は良く出来ていると思うが、実際に計画通りに進んでいないものも多い。地域のニーズを把握し、どういった事が課題なのか、なぜ計画通りに進まなかったのを分析して次の９期計画の策定に活かしてもらいたい。

○米澤委員

我々、地域女性ネットは地域でケアネット活動などをおして高齢者が集まり、介護予防活動につながる活動をしているが、活動はボランティアのため限界もある。行政や地域包括支援センターなどの力を借りながら、高齢者が住み慣れた地域で、これまでの日常生活に近い環境で暮らし続けることができるよう活動を続けていきたい。

○宮崎委員

いきいきサロンなど介護予防活動を行っているが、新型コロナウイルスの影響で思うような活動ができていないのが現状である。これから状況がどう変わるのかわからないが、介護予防活動回数が増えていけば良いと考えている。

<事務局説明>

(４) 計画策定に向けたスケジュールについて

議事(４)について事務局 鍵主係長が説明

委員から意見なし

<事務局説明>

(5) 計画策定に向けた調査について

議事(5)について事務局 鍵主係長が説明

○炭谷会長

調査の回答期限はいつまでか。

○事務局

本日2月28日が調査回答期限となっており、今後は調査結果の検証を行う予定である。

○坪内委員

専門職を対象とした調査の回収率は悪くないと推測するが、高齢者やご家族を対象とした調査の回答率はあまり良くないのではないか。私自身、在宅介護実態調査の依頼をしても断られることが多かった。今後、計画策定に向けた調査を行う際は高齢者やご家族が回答しやすいよう工夫する必要があると感じた。

○事務局

高齢者やご家族を対象とした調査は紙ベースで実施したが、現在、高齢者向けのアプリ開発を進める予定としており、その中にアンケート機能を盛り込む予定としている。今後はアンケート機能を活用することで施策に活かしていきたいと考えている。

○金岡副会長

アンケート調査などは紙よりもネットを活用した方が効果的なので、今後は紙を使わないようになっていく。高齢者がネットをどこまで活用できるかという課題はあるが、調査はご本人だけでなくご家族が協力して回答することもできると思うので、ネットを活用したシステムがあれば有効だと思う。

○米澤委員

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回答率はどの程度か。

○事務局

5,000人を対象とした調査に対して、現在約3,000人の方から回答がある。前回は3,500人ほどから回答があったので、回答率は前回調査と同程度か若干落ちると思われる。

○米澤委員

アンケート回収率ははどの程度あれば十分なのか。

○炭谷会長

アンケート回収率については、30%以上あれば良い方だと思う。統計学的には無作為サンプリング調査の有効性は、有効回答率が400以上あれば有効とされていることから、今回の調査結果の有効性は十分だと思う。

<事務局説明>

(6) たかおか認知症高齢者等個人賠償責任保険事業について

議事(6)について事務局 鍵主係長が説明

○堀井委員

以前からお願いしていた認知症高齢者等個人賠償責任保険事業が開始され非常に嬉しく思っている。また、この事業が県内全ての自治体で実施されることが認知症の方やそのご家族のためになると思う。

○山吉委員

自分で認知症診断を受けようとしなくて多い人と思う。本人が診断を受けなければ加入できないのであれば、保険に加入できない方が多くなるのではないかな。

○事務局

この保険は認知症高齢者等SOS緊急ダイヤルシステムへ登録していれば、認知症の診断書が添付されていなくても加入できるので、包括支援センターやケアマネージャーさんに相談いただき、認知症の症状がある旨を申請書に記載していただければ加入することができる。

○吉田委員

給付実績は。

○事務局

本日までに、保険を適用された方はいない。

○加藤委員

高岡市から届く冊子や書類の多くが専門用語や独特の言い回しを多用しているため非常にわかりにくいと感じている。自分達は当たり前だと思って使っている言葉が、他の人には通じないのではないかという意識を持つことが大事だと思うし、できる限り簡単な言葉に言い換えるなど誰もがわかりやすい表現に努めてもらいたい。

○松岡委員

認知症になった本人よりも、介護をする家族の負担が非常に大きいと感じているので、介護

している家族に対する支援が今後増えていくことを期待している。

○石多委員

高岡歯科医師会では訪問歯科診療を推進しているが、新型コロナウイルスの影響で実施件数が減少しているので、状況の変化に対応しながら引き続き実施していきたい。

○梶委員

高岡市老人クラブ連合会では健康づくり、介護予防活動をとおして健康寿命の延伸を目指しており、現在はeスポーツや健康麻雀に力を入れているが、新型コロナウイルスの影響で思うように活動ができていない。コロナ禍の中でどのような活動ができるのかを考えながら来年度の事業を進めていきたい。

○炭谷会長

老人クラブが元気に活動することが最大の介護予防活動だと思っている。これからの高齢化社会を乗り越えるためには老人クラブの力が必要なので、コロナ禍での活動は大変だと思うが引き続き活動を継続していただきたい。

○上見委員

新型コロナウイルスの影響によって、生活困窮者が増加している。また、外出することが減り、他者との交流が減少したことで認知症が進んだ方も多いのではないかと思う。新型コロナウイルスは我々の日常生活を一変させ、非常に苦しい状況が続いているが、社会福祉協議会としてできる支援を続けてまいりたい。